

今日のトピック 原油価格の動向 OPECが減産で合意

ポイント1 OPECが生産量を制限へ 28日のWTIは5%上昇

- 9月28日、OPEC（石油輸出国機構）はアルジェリアで開催されていた非公式会合で、今後の原油生産量を日量3,250～3,300万バレルに制限することで合意しました。会合では、減産の合意は得られないというのがコンセンサスだったので、今回の合意はサプライズとなりました。
- このため、同日のWTI原油価格は、前日比5.3%の大幅な上昇となりました。

ポイント2 需給インパクトは小さい 減産はOPEC生産量の2%程度

- 直近のOPEC加盟14カ国の原油生産量は、日量3,324万バレル（8月時点）程度です。したがって、今回の合意が実行されれば、実質的に日量24～74万バレルの減産となります。
- OPEC加盟国の減産幅は最大でも2%強にすぎません。また、世界の原油生産量の約9,000万バレルに対しては1%未満です。このため、数字だけの印象では、需給へのインパクトはかなり限定的と見られます。また、11月のOPEC総会までは、国別の生産量は決定されない模様です。

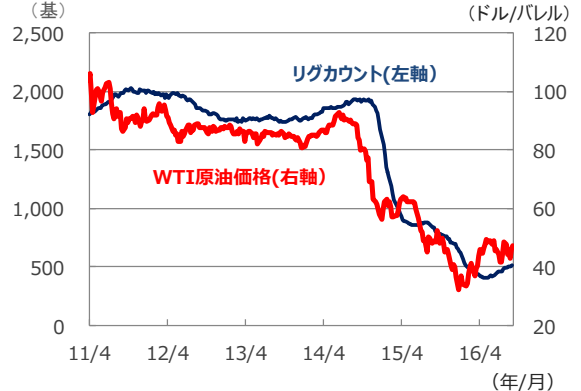
今後の展開 サウジアラビアの政策転換が下値を支える

- OPECの今回の合意形成の背景には、サウジアラビアの石油政策の転換があると考えられます。これまでサウジアラビアは、政治的にも対立しているイランの増産やシェールオイルなど新たな原油供給増加に対して、危機感を強め、自国の原油生産を増やしてきました。
- OPECの生産量制限実行に際し、サウジアラビアはイランの増産あるいは生産量凍結を容認し、自国の生産を削減するなどの譲歩を行う模様です。OPECの減産は、リーマンショック後以来、8年ぶりとなります。減産の需給への影響は軽微ですが、原油市況への心理的影響は大きく、下値を支える要因となりそうです。

【原油価格とドル円レート】



【原油価格と北米の rigs カウント】



(注) 上図のデータ期間は2005年12月30日～2016年9月28日（週次）。
下図のデータ期間は2011年4月22日～2016年9月28日（週次）。
Rigs カウントは 9月23日まで。

(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ここも
チェック! 2016年 9月28日 最近の指標から見る欧州経済 (2016年9月)
2016年 9月 7日 最近の指標から見る米国経済 (2016年9月)

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。